

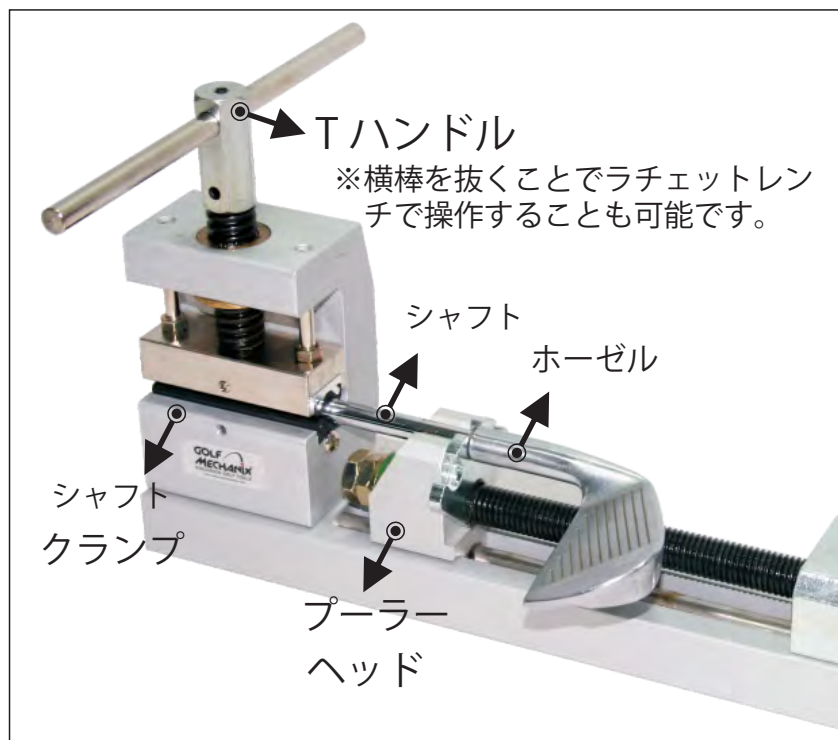
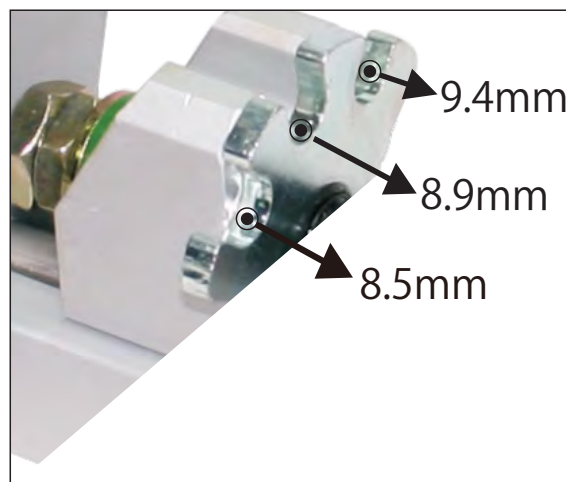
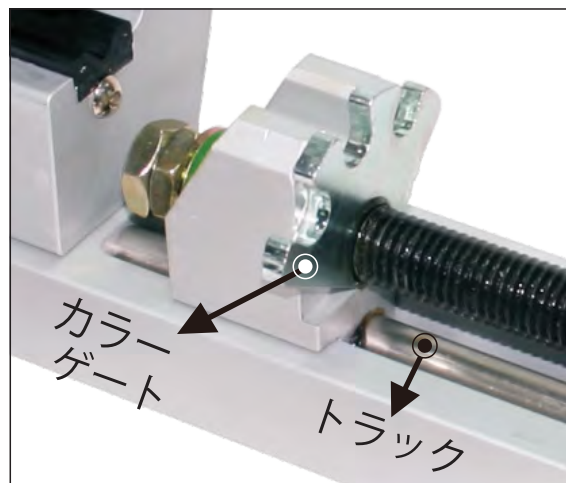
GolfMechanix スタンダードヘッド抜き工具

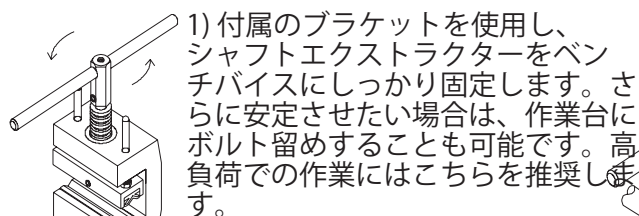
スタンダードヘッド抜き工具は、手頃な価格ながら業務用クラスの性能を備えたシャフトプーラーです。このエクストラクターは小規模工房向けに設計されていますが、大量のシャフト抜き作業にも対応できます。第3世代となる本機は、アップグレードのたびに改良を重ねてきました。今回の変更点は、ヘッドをシャフトから引き抜くカラーゲートハウジングが、シャフトプーラー本体フレーム上を滑るのではなく、5/8インチの丸型トラック上をスムーズにスライドするようになったことです。これまでの改良点として、「T」ハンドルでシャフトクランプへの圧力を確認できることや、カラーゲートの固定方式などがあり、扱いやすく、耐久性にも優れています。



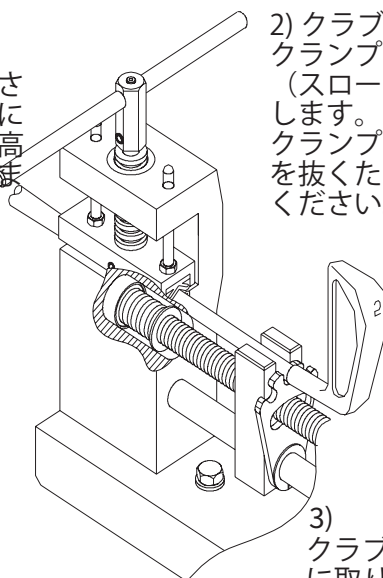
ソケットカッター (別売)⇒

シャフトからヘッドを抜く場合は、まずプーラーヘッドをシャフトクランプ側に寄せた状態から始めます。ソケット=フェールは事前にカッターナイフで取り外してください。別売のソケットカッター(56040342)をお持ちなら、ソケットとカラーゲートの間でシャフトに被せますが、シャフトが傷付かないように、ソケットカッターを被せる部分のシャフトにマスキングテープを貼って保護します。ラチェットレンチでカラーゲートをホーゼル側へ移動するのに合わせて、ソケットカッターがソケットを切断しますので、取り外します。

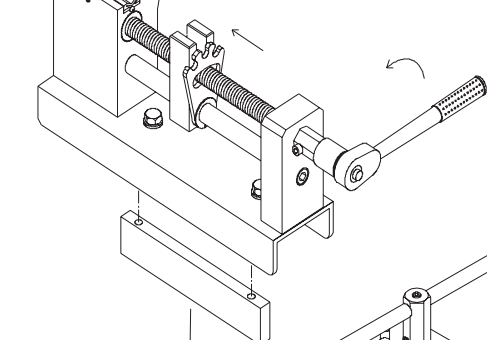




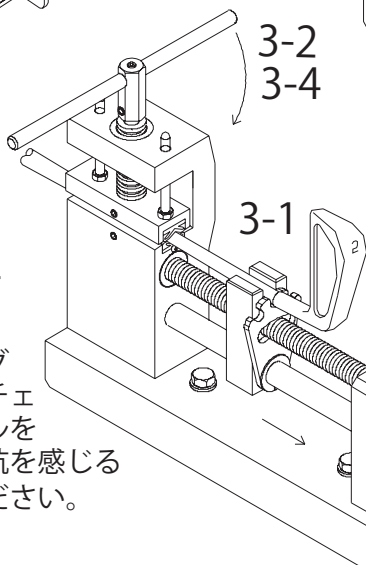
1) 付属のブラケットを使用し、シャフトエクストラクターをベンチバイスにしっかり固定します。さらに安定させたい場合は、作業台にボルト留めすることも可能です。高負荷での作業にはこちらを推奨します。



2) クラブを機器にセットする前に、クランプハンドルを回して開口部（スロート）が十分に開くよう調整します。あわせてプーラーヘッドもクランプの近くまで寄せ、シャフトを抜くためのストロークを確保してください。



3) クラブをシャフトエクストラクターに取り付ける前に、フェールを外してください。

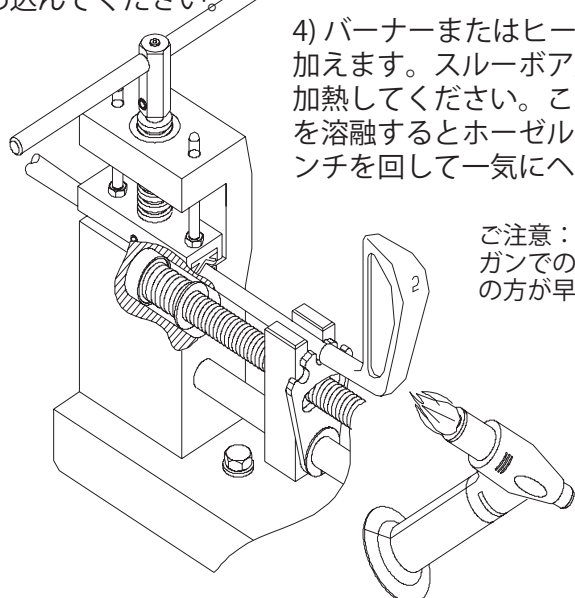


3-1 クラブのシャフト側をクランプにはさみ、プーラーヘッドを通して、シャフト径に最も合うカラーゲートを選んでホーゼル端面がゲートに当たる位置にクラブを保持します。

3-3 安全パワースプリングを予圧するには、ラチェットレンチでハンドルを時計回りに回し、抵抗を感じるころまで回してください。

3-4 クラブヘッドのホーゼルに熱を加える前に、必要に応じてシャフトクランプをさらに1/2回転締め込んでください。

3-2 T字ハンドル、またはラチェットレンチの使いやすい方を使って、シャフトの上からクランプを締め付けます。締めすぎるとシャフトを傷めるおそれがありますので、ご注意ください。



4) バーナーまたはヒートガンを使用し、ホーゼルのシャフト先端付近から熱を加えます。スルーボア形状のヘッドは、クラブのヒール側を中心により多めに加熱してください。この間、プーラーヘッドには圧力をかけ続けます。接着剤を溶融するとホーゼルが少しズレますので、すぐに加熱を止め、ラチェットレンチを回して一気にヘッドを引き抜きます。

ご注意：塗装仕上げのヘッドにはヒートガンの使用を推奨します。ヒートガンでの加熱時間は1～2分を目安にしてください。トーチ（バーナー）の方が早く（1分以内）作業できます。

メンテナンス：

1- エクストラクターボルトとガイドロッドは清潔に保ち、十分に潤滑してください。薄くグリスを塗ることでネジ部のかじりや摩耗を抑えられます。クランプ上側のボルトネジ山にも潤滑を行ってください。

2- 抜き取り作業中にエクストラクターボルトへ過度な負荷をかけないでください。また、エポキシ接着剤を溶融させるためにクラブヘッドのホーゼルを十分に加熱する前に、シャフトを抜こうとしないでください。

3- ゴム製ジョーは清潔に保ち、油分や砂・汚れを落とすために、ときどき溶剤で拭き取ってください。シャフトが滑る場合は、ワックス状の残留物を落とすため、中性洗剤で拭き取ってきれいにします。